京都芸術センター通信

KYOTO ART CENTER 京都芸術センター

OCTOBER 2020 10

VOL.245

発行：京都芸術センター　2020年9月20日

守屋友樹「毛皮を着た叔父さん、鮭が舞う」より 2020

影を刺す光—三嶽伊紗＋守屋友樹 展

設立20年をむかえる京都芸術センターでは、これまで多くの作家・アーティストによる展覧会の開催を重ねてきました。本展ではこれまでに交流してきた作家と、若手作家による展覧会を開催します。三嶽伊紗は、2002年に本センターでの公募に選出されて以来、一貫して「在る」ということの意味について向き合って制作してきました。守屋友樹は写真をベースに、インスタレーション作品をはじめ演出家とのコラボレーションなど精力的に活動を展開しています。

目に見えるものが世界の全てではない、ということについて、私たちは理解しているようでいて、普段の生活でそれを意識することは多くありません。タイトルの「影を刺す光」とは、影が刺すことで初めて光の存在に気付けるように、実体のないもの—私たちが時間、気配、関係、空気、畏敬などと呼ぶもの—の存在をふとした瞬間に感じさせるもの、目に見えぬ「何か」を私たちに気付かせるものを表しています。

三嶽は、窓ガラスからの外光を取り入れたインスタレーションを展示するほか、映像では、出かけた場所で撮影したものを幾重にも重ね、一見、静止しているような情景を生み出しています。場所や記憶から受けた予感や空気をふまえ制作された映像は、時間軸が失われイメージそのもの、いわば心象風景ともいえます。

三嶽伊紗《シロイ夜_2020》2020（参考作品）

守屋は、熊の木彫りを起点に人と熊の関係を巡る歴史について北海道でフィールドワークを行いました。木彫りとなる過程で文字通りそぎ落とされた熊への畏敬の念をあぶり出しながら、人が自然に向き合うことを問いかけます。

本展は2020年5月に開催予定だったものを、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、延期して開催するものです。見えないものの存在がこんなにも現実に身近なものとなった今、三嶽、守屋の作品から何を感じることができるでしょうか。

感性と経験から手を動かしながら制作している印象の三嶽さん。対する守屋さんは、人類学者さながら、文献やフィールドワークで作品作りに向かいます。作品に対する2人のアプローチの違いも見どころです。　吉峰 拡（アートコーディネーター）

Profile

三嶽伊紗（みたけ・いさ）

1956年高知市生まれ。京都市立芸術大学大学院修了。〈カタチ〉から離れたい、と〈モノ〉の輪郭を曖昧にする制作をつづける。2007年より映像作品も発表。撮りためた像を何層も重ね、眠りの中の夢のように時間軸のない絵を探す。主な展覧会に「みえるもののむこう」（神奈川県立近代美術館 葉山、2019）、「縄文と現代［白い、白い遠望］」（京都造形芸術大学芸術館、2016）、など。

守屋友樹（もりや・ゆうき）

写真家。1987年北海道生まれ。京都造形芸術大学修了。現在、京都を拠点に活動。未然、喪失、予感をテーマにインスタレーション作品を発表している。主な個展に「シシが山から下りてくる」（Gallery PARC、京都、2018）、第21回写真「1_wall」増田玲選 奨励賞を受賞（2019）。

『影を刺す光－三嶽伊紗+守屋友樹 展』

日時：10月10日（土）－11月29日（日）
10:00－20:00
※11月16日（月）休廊、入場無料

会場：ギャラリー北・南

出展：三嶽伊紗、守屋友樹

協力：ギャラリーヤマグチクンストバウ、
一般社団法人HAPS

※詳細はウェブサイトをご確認ください

EVENT CALENDAR

2020.10

略称

日 …… 日時　場 …… 会場　席 …… 席主　出 …… 出演、出展
演 …… 演目、曲目　料 …… 料金　定 …… 定員　主 …… 主催
共 …… 共催　問 …… 問合せ　対 …… 対象　持 …… 持物

アイコン　美術

※9/15時点での情報を掲載しています。開催状況はウェブサイトにてご確認ください。

PICK UP

ニュイ・ブランシュKYOTO2020

毎年10月に開催されるニュイ・ブランシュKYOTOは、フランス・パリで行われる白夜祭に着想を得て行われる一夜限りのイベントで、日仏のアーティストたちが多彩なプログラムを展開します。

Bridge of Bordeaux（2008）

Artist in Residence program in Paris 2019/2020
宮坂直樹・山村祥子 報告展

2019年度にシテ・アンテルナショナル・デ・ザール「ヴィラ九条山スタジオ」（パリ、フランス）にて滞在制作に取り組んだアーティスト2組による報告展を開催します。
●出展：宮坂直樹、山村祥子 主一般財団法人おおさか創造千島財団、ヴィラ九条山、京都芸術センター

川俣正「水辺の風景」パブリックアートプロジェクトエスキース展

パリを拠点に世界で活躍するアーティスト、川俣正によるこれまでの水辺のプロジェクトのエスキースと作品画像、模型を展示します。
●出展：川俣正 主アンスティチュ・フランセ関西、京都市、京都市教育委員会、京都芸術センター ●協力：岩﨑陽子（嵯峨美術短期大学）、文化庁地域文化創生本部 ●企画：MUZ ART PRODUCE

ル・フレノワ映像展「空のむこうに―宇宙の超現実―」

映像作品など現代アートの制作支援・教育活動・研究を行う、フランスの国立アートスタジオ、ル・フレノワの協力の下、4つの映像作品を上映します。
●出展：Annabelle Amoros、Hugo Deverchère、Momoko Seto、Vincent Ceraudo 主京都市、アンスティチュ・フランセ関西、京都芸術センター

日9月25日（金）－10月4日（日）10:00－20:00 ※会期中無休・入場無料 ※10月3日（土）は22時まで 場和室「明倫」、ミーティングルーム2 ほか
※ニュイ・ブランシュKYOTO2020の詳細はウェブサイト（https://www.nuitblanche.jp/）をご確認ください

また、アンスティチュ・フランセ関西－京都にて、HIxTO『生の展覧会』を上演します。今年1月に当センターで行った舞台作品『raw―精神と肉体の展覧会―』の世界観（生っぽさ）を引き継いだパフォーマンスにご注目ください。
日10月3日（土）20:30－21:30 ※入場無料

9/5 sat. … 10/4 sun.

展覧会『We Age』

20周年を迎える京都芸術センターでは年間のテーマを「We Age」とし、65歳以上の方を対象に作品プランを公募しました。多数の応募の中から選ばれた、予想を超える作品の展示を行います。
日9月5日（土）－10月4日（日）10:00－20:00 ※10月3日（土）は22:00まで
※会期中無休・入場無料 場ギャラリー北・南ほか

10/10 fri. … 11/29 sun.

『影を刺す光―三嶽伊紗+守屋友樹 展』

京都芸術センターでこれまで展覧会に出展してきた三嶽と、写真をベースに活動する若手作家・守屋による展覧会。
日10月10日（土）－11月29日（日）10:00－20:00 ※入場無料、11月16日（月）休廊 出三嶽伊紗、守屋友樹 場ギャラリー北・南 ※P1もご覧ください

図書室休室日：10月30日（金）

制作支援事業 （制作室使用者による公演・展覧会）

BIWAKOビエンナーレ2020 “森羅万象～COSMIC DANCE”
長沢優希「Qualia」

時代を感じさせる空き町家の空間に、日常の中で人が特に意識を向けないものを素材に制作したインスタレーション作品を展示します。
日10月10日（土）－11月23日（月・祝） 場滋賀県 近江八幡会場 カネ吉別邸 料共通チケット 前売一般3,200円／学生2,200円ほか 問BIWAKO ビエンナーレ事務局 TEL：0748-26-5832 WEB：https://energyfield.org/biwakobiennale/ ※P3もご覧ください

渡邉野子個展『美しい経験 -The Beautiful Experience-』

抽象絵画（油彩）を通じて対話を楽しむための展覧会。会期中に、オンラインでの作品鑑賞やアーティストトークを開催予定。※詳細はWEBをご確認ください
日10月11日（日）－10月25日（日）14:30－19:00 ※月曜休廊 場Gallery G-77（中京区） 料無料 問Gallery G-77 WEB：https://ja.g77gallery.com TEL：090-9419-9326 E-mail：info.g77gallery@gmail.com

OPEN CALL ［募集］

第43期制作室使用者募集

若手芸術家の活発な創作活動を支援するため、造形及び舞台・音楽作品などの制作を行う「制作室」（全12室）を提供します。
●使用期間：2021年4月1日（木）－9月30日（木） ●条件：1申請につき使用期間は最大3ヶ月、制作した作品を京都芸術センター以外の場で発表する具体的な計画があることなど ●選考方法：専門家等で構成する委員会で審査を行います。審査結果に基づき、京都芸術センターで、使用する日時・制作室を調整します。●応募方法：京都芸術センターウェブサイト（https://www.kac.or.jp/program/21908/）の募集要項をよく読み、応募書類をメールにて提出してください ●締切：9月30日（水）23:59まで 問京都芸術センター制作室担当 E-mail：studio@kac.or.jp ※P3もご覧ください

TICKET ［チケット］

第259回 市民狂言会

日10月22日（木）開場18:00 開演19:00 場京都観世会館（左京区） 演水掛聟、夷毘沙門、小舞（小原木、栗焼、鮒）、六地蔵 出茂山七五三、あきら、千三郎、千五郎 ほか 料前売3,000円／当日3,500円 ※全席指定 ●チケット取扱：京都芸術センター、チケットぴあ（Pコード：502-351） 主京都市

第260回 市民狂言会

日12月4日（金）開場18:00 開演19:00 場京都観世会館（左京区） 演萩大名、長光、小舞（福の神、景清、京童）、貰聟 出茂山七五三、あきら、千三郎、千五郎 ほか 料前売3,000円／当日3,500円 ※全席指定 ●チケット取扱：京都芸術センター、チケットぴあ（Pコード：502-352） ※10月23日より販売開始 主京都市

制作室使用者インタビュー

京都芸術センターでは2000年の開設以来、明倫小学校の教室であった部屋を制作室とし、審査によって選ばれたアーティストが創作活動をする場として無償で提供しています。
今回は、今まさに制作室を使用している3名にお話を伺いました。
また現在、2021年4月から9月に制作室を使用するアーティストを募集中です。
演劇、ダンス、美術、音楽など、様々な分野からの申請をお待ちしています。 ※P2もご覧ください

撮影：前谷開

倉田 翠 Midori Kurata

ここ数年、稽古の場所はもっぱら制作室というakakilike主宰の倉田翠さん。色々とお話を伺う中で、「コロナ禍以降やりたいことは変わりましたか？」と問いかけた際の言葉を、抜粋してご紹介します。ごく久しぶりに、ソロ作品を控えているようです。

とても変わったと思う。昔から、ソロ、「私（わたくし）」に興味が持てなかった。ひとりだと私が「私」であることに根拠が持てなくて、他者がいることで、「私」だったり「演出家」だったり、何かになっていられる。それが作品がつくれないこの期間に、「私」を見ざるを得ない時間があった。作品をつくっている間は生活の中でうまれる雑念も客観視できたり、人とも作品を通して関わっている時はいいけれど、それがなくった途端、自分自身も含めて不確かになるような感覚があった。作品がないと、（ぺしぺし自分の身体を触り叩きながら）「私」しかない。改めて、ひとりで立っていなかったんだと気が付いた。これまで作品という「側（がわ）」を扱ってきて、「私」の身体やダンスは意識的に雑に扱ってきた。踊りで感情や情景を表現する、というのがダンサーとしてわからず、いつも自分にとってリアリティがあって切実なのは、太るとか痩せるとか、切ったら血が出るとか、といったことだった。でも今回、「身体」や「ダンス」にも向かい合ってみる機会になった。今度ソロをしてみます。

Profile

倉田 翠（くらた・みどり）
演出家・振付家・ダンサー。1987年生まれ。3歳よりクラシックバレエ、モダンバレエを始める。2016年より倉田とテクニカルスタッフのみの団体、akakilikeを主宰。作品ごとに自身や他者と向かい合い、そこに生じる事象を舞台構造を使ってフィクションとして立ち上がらせることで「ダンス」の可能性を探求している。ロームシアター京都×京都芸術センター U35創造支援プログラム“KIPPU” 2018 採択。

長沢 優希 Yuki Nagasawa

長沢優希さんは学生時代から京都芸術センターのギャラリーによく足を運んでいて、制作室使用の募集があることも知っていたそうです。2014年に大学を卒業してから、応募するタイミングをずっと狙っていたものの自身の展示期間と制作室の募集期間が合わないことが続き、今回やっと応募することができたのだとか。

長沢さんは現在、BIWAKOビエンナーレでの展示に向けて作品を制作中です。展示する会場は古い町家で、場所も広いため、なるべく広い空間でイメージを膨らませて制作できるのが良いと話してくれました。普段は過去作品などに囲まれながら自宅で制作しているけれど、大きい作品を作りやすい制作室だと気持ち的にもゆったり作ることができるそう。ほかの部屋でも制作している人がいると感じるだけで、「頑張らな！」という気持ちになる、と笑顔で語ってくれました。

※P2もご覧ください

撮影：前谷開

Profile

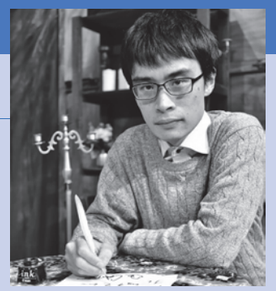
長沢優希（ながさわ・ゆうき）
身の回りにある用途の決まっているものや普段人が特に意識を向けないものを素材に作品 を制作。行為を加えることにより形や意味が崩れる可塑性とそうしてできたものに宿る純 粋な美しさに惹かれ、またその存在感をいかに空間に煽るかを追い求めている。

高間 響 Hibiki Takama

「センターを知ったきっかけは覚えていないくらい前ですね」と話すのは、高間響さん。プロレス芝居や社会や政治などの時事ネタを扱ったコメディ作品で活躍している劇団「笑の内閣」で劇作・演出を手がけています。笑の内閣は、2018年には京都芸術センターにて共同主催事業Co-programとして『そこまで言わんでモリエール』を新作初演。取材時は9月下旬公演予定の『東京ご臨終～インパール2020+1～』（※）の稽古の真っ最中でした。

コロナ禍の中、「もし、戦国時代にZOOMがあったら」という設定で行った『信長のリモート』について「映像だから出来ること、出来ないことが分かったのが収穫でした。でも結局は、演劇は生（なま）じゃなきゃいけない」と振り返りました。徐々に改善しつつあるとは言え、依然厳しい演劇を取り巻く環境。「公演時の客席の半減などの制限は避けて通れません。でも演劇の一回性をなくすことは出来ない。今の状況をなんとか活かすために、今度の公演は転換や舞台美術、期間限定の動画配信などの工夫も行っています。お客さんには安心して、気軽に見てもらいたいです。」

※9月20－22日、THEATER E9 KYOTO（南区）にて公演



Profile

高間 響（たかま・ひびき）
劇作家、演出家。佛教大学劇団「紫」を経て、2005年「笑の内閣」を旗揚げし、現在は脚本を担当している。実寸のリングで本当にプロレスをするプロレス芝居や様々な社会問題を扱った時事ネタ芝居を得意とし、コメディ作品を中心に手がけている。

2020年3月に京都市京セラ美術館にて一般公開を予定していた「STEAM THINKING－未来を創るアート京都からの挑戦 国際アートコンペティション スタートアップ展」会場風景（撮影：表恒匡）

KYOTO STEAM 2020

国際アートコンペティション スタートアップ展

アート×サイエンス・テクノロジーをテーマとする国際的な文化芸術の祭典「KYOTO STEAM－世界文化交流祭－」。同実行委員会では、今年3月に第1回目フェスティバルを開催。2022年には第2回目となる「KYOTO STEAM－世界文化交流祭－2022」を予定しています。これに向け、今年度は「prologue」として美術や舞台芸術、動物園との共同事業など、多彩なプログラムを実施します。

その一環として、今年の秋、「KYOTO STEAM 2020 国際アートコンペティション スタートアップ展」を開催します。本展では、今年3月に開催予定だったものの、中止となった展覧会のために制作した、アーティストと企業・研究機関等のコラボレーション作品を展示するとともに、私たちと同じくアートとサイエンス・テクノロジーの融合を通じて新たな価値の創造を目指している企業の作品を、併せて展覧します。

そしてこの展覧会を踏まえ、来年度には、「KYOTO STEAM 2022　国際アートコンペティション」を開催します。本コンペティションは、アーティストと企業・研究機関等の双方を公募し、審査によってコラボレーションの組み合せを決定。その後、アーティストが発案した作品プランにもとづき共同制作した作品を展覧し、その中から優れた作品を表彰します。

アーティストと企業・研究機関等がコラボレーションするとき、どのような作品が生まれるのか。その答えを見つけに、どうぞ展覧会にお越しください。そして来年度開催するアートコンペティションに、どうぞご期待ください。

※京都芸術センターを運営する（公財）京都市芸術文化協会は、KYOTO STEAM－世界文化交流祭－の参画団体です。

KYOTO STEAM 2020
国際アートコンペティション スタートアップ展
会期：10月31日（土）－12月6日（日）10：00－18：00
※月曜日休館（月曜日が祝日の場合は開館）
※要事前予約。詳細は京都市京セラ美術館公式ウェブサイト（https://kyotocity-kyocera.museum/）をご確認ください
会場：京都市京セラ美術館 東山キューブ
料金：一般 1,000円／中学生以下無料 ほか
協賛：NISSHA株式会社、株式会社ユニオン
協力：curiosity株式会社、
一般財団法人ニッシャ印刷文化振興財団、
パナソニック株式会社
主催・問合せ：
KYOTO STEAM－世界文化交流祭－実行委員会
TEL：075-752-2212　FAX：075-752-2233
E-mail：info@kyoto-steam.org
WEB：https://kyoto-steam.com/

京都芸術センターは、
2020年4月に開設20周年を迎えました！
テーマは“We Age”
（ウィー・エイジ）
（ロゴデザイン：松本久木）

最新情報はウェブサイトでご確認ください。
公式ウェブサイト | https://www.kac.or.jp
kyotoartcenter　@Kyoto_artcenter　@kyotoartcenter

20周年記念グッズ紹介

京都芸術センター開設 20 周年を記念し、オリジナルグッズを作成しました。
窓口にて販売しておりますので、お手に取ってご覧ください。

- ステッカー…200円
- ノート…400円
- ［数量限定］ピンバッジ…1,300円
- 風呂敷（赤・青）…1,200円

※すべて税込

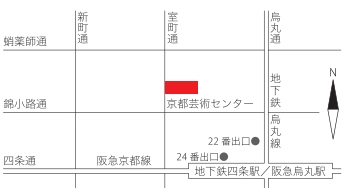
販売：京都芸術センター窓口
（10:00－20:00）

京都芸術センター
KYOTO ART CENTER

交通案内
●市営地下鉄烏丸線「四条」駅／阪急京都線「烏丸」駅 22番出口・24番出口より徒歩5分。
●市バス「四条烏丸」下車、徒歩5分。

開館時間
●ギャラリー・図書室・情報コーナー・チケット窓口　10:00－20:00
●カフェ（改装工事のため10月1日まで閉店）
●制作室、事務室　10:00－22:00

休館日　12月28日から1月4日
※設備点検のため臨時休館することがあります



〒604-8156 京都市中京区室町通蛸薬師下る山伏山町546-2
TEL：075-213-1000　FAX：075-213-1004
E-mail：info@kac.or.jp

指定管理者：公益財団法人京都市芸術文化協会